

関市行政改革推進審議会

- 1 会議名 第7回関市行政改革推進審議会
- 2 日時 平成29年12月20日（水）15時～17時
- 3 場所 市役所6-2会議室
- 4 出席委員

No.	名	区 分	
1	浅野 欽一郎	1号委員	関市まちづくり協議会
2	石木 五月	3号委員	元教育委員会委員
3	岩崎 大介	3号委員	朝日大学教授
4	遠藤 恵子	4号委員	一般公募
5	掛布 真代	1号委員	関青年会議所
6	加納 裕泰	4号委員	一般公募
7	川嶋 涼子	4号委員	一般公募
8	山田 博	1号委員	関金融協会
9	杉山 ミサ子	1号委員	関市西商工会
10	土屋 康夫	3号委員	元岐阜新聞論説委員
11	長尾 始	1号委員	自治会連合会
12	遠藤 和子	1号委員	関市地域女性の会連合会
13	中村 繁	2号委員	関市副市長

- 5 欠席委員 2名（坂井勇平、佐藤一幸）

- 6 説明のために出席した者

市長公室長	山下 清司	会計管理者	二俣 幸二
企画部長	桜田 公明	教育委員会事務局長	渡辺 数忠
総務部長	下村 等	秘書広報課課長補佐	加藤 直之
市民環境部長	大桑 哲生	秘書広報課主任主査	山田 真也
経済部長	永田 千春	秘書広報課係長	山田 知義

- 7 傍聴者 なし
- 8 議事日程 次第のとおり

第7回 関市行政改革推進審議会

日 時 平成29年12月20日（水）

15時～17時

場 所 市役所6－2会議室

1 開 会

2 協議・報告事項

（1）SAP48・せき行財政改革アクションプラン（H29総括①）の進捗報告について

①重点改革項目

②主な改革項目

③SAP48の達成状況

④SAP48の効果額

⑤新SAPへの継続項目

（2）SAP48に対する意見・質問について

3 事務連絡

4 閉 会

（配布資料）

◎行革（SAP48）効果額（進捗状況）一覧表（※事前配布）

◎行革（SAP48）プランニングシート（※事前配布）

○SAP意見シート

○審議会委員名簿

1 開 会

事務局

地域女性の会連合会より選出の安田美紀子氏に代わり遠藤和子氏、関金融協会より選出の櫻井広志氏に代わり山田博氏が就任されました。

なお、本日の審議会は坂井勇平氏、佐藤一幸氏は欠席です。

会長

(あいさつ)

2 協議・報告事項

事務局

((1) (2) について説明)

委員 (No. 31 補助金の見直しについて)

11 月から概要調書作成では取り組みが遅い。この 2 年半何をやっていたのか。他の課は結果を出している。補助金を削れとは言っていない。見直しをきちんとやってほしい。

総務部長

平成 27、28 年度には補助金要綱等の整備を進めてきました。また、平成 29 年度は個々の補助金の内容を精査しながら算編成作業の中で見直しを進めています。次の新たな行財政改革においても、引き続き、見直しに取り組んでいく考えです。

会長

市の財政は補助金の占める割合大きい。補助金の総額抑制が出来ないのであるならば、なおさら 1 つ 1 つの補助金の見直しに踏み込んでいかなければいけない。次の新たな行財政改革では、補助金の見直しとして具体的な数値目標を設定して取り組んでいただきたい。

委員 (No. 7 滞納繰越額の削減)

専門性を持った職員を育てるのにはコストがかかるのではないかと。市の徴収業務をアウトソーシングするなど、人件費を削減し費用対効果を上げるべき。

総務部長

徴収部門の人材育成のための費用（研修等）は少なからずかかっている。ご意見のとおり、アウトソーシングを含めたコスト削減については十分検証していきたい。

委員 (No. 1 ふるさと納税制度の推進)

この3年間はふるさと納税のブームもあり、市の取り組みとしても上手くいったと思うが、今後の見通しはあるのか。

企画部長

ふるさと納税の今後の見通しについては不透明です。また、全国的にもふるさと納税の本来の趣旨とは違ってきていると意見も多く出てきていますが、やらなければ関市から多額の税金が出ていくことになります。市としましては、謝礼品のカタログや事務処理などの経費を差し引いても歳入がプラスになるよう工夫が必要だと考えます。なお、謝礼品は関の刃物が6割で経済効果もあり、関市としては成功していると思います。

会長 (No. 39 窓口支援システムの導入について)

市町村行政情報情報センターのシステムを導入すると効率が悪くなるという説明があったが、そもそも窓口支援システムは現在の問題点を解消し、行政の事務効率の向上を目的として導入すべきものではないか。今後の進め方として何かあるのか？

企画部長

岐阜県下では市町村行政情報センターのシステムを導入している自治体が多いのが現状となります。また、窓口業務を一括して民間企業にアウトソーシングすることについては、個人情報の問題もあるため現段階では難しいのが現状です。窓口における書類の発行程度なら可能ですが、どうしても市民一人ひとりに合わせた窓口対応が必要になってくるケースも出てきます。その場合、担当職員に来てもらうか、その窓口に行っていただくしか方法がありません。これらの事務手続きと人の動線を考えた場合の効果があるのかどうかは課題となります。なお、今後の取組としては、福祉3課の総合窓口の設置を計画していますので、市民サービスの向上と費用対効果を考えながら隣接する課との合同窓口について検討していきたいと考えます。

会長

担当者からの細かい説明が必要なケースがどれくらいの頻度で発生しているのか。ある程度の内容は総合窓口で対応して、それ以上の事は担当課で直接対応する、というやり方を検討していく必要があるのではないか。

企画部長

総合窓口のメリットは、例えば転入してきた市民が一括で手続きを済ませられる事が市民サービスの向上に繋がるという考えて検討してきました。

しかし、窓口での証明書等の発行程度の業務であれば導入可能だと思いますが、すべての窓口業務を総合窓口として取り組む場合、来庁者が総合窓口に並んでしまい、従来よりも余計に時間がかかってしまっては改革の意味がありません。現在、これらの検討課題をどう解決するかと、マイナンバー制度によって窓口業務のアウトソーシング化が難しくなったという点もあり、関市の規模

に合わせた窓口改革がどのような形で取り組むべきかを慎重に考えて検討していきたいと考えます。

会長

市として、どういう形で導入し、窓口事務のコスト削減ができるかを、調査・分析して取り組んで欲しい。

委員 (No. 38 地域事務所のあり方の見直し)

地域事務所に予算を持たせて、職員に活発に活動してもらいたい。

委員

現在、地域の取り組みは地域委員会に全ておまかせになっている。

市長公室長

現在の地域事務所については、旧町村の役場時代と比較すると職員数も減り、市民にとっても物足りなさがあるかもしれません。市としては、本庁と各地域事務所が横並びの行政を運営するのではなく、各地域の特色を生かし、メリハリを持たせた地域事務所の運営を考えて見直しを図る必要があると考えます。

委員 (No. 12 ごみ処理経費の適正負担)

ごみ袋の有料化によって市内の不法投棄は増えたか？市民として感じることは、祝日（月曜）の回収が良くなったと思うのと、ゴミ袋を大切に使うようになったと感じている。

市民環境部長

ごみ袋の有料化がスタートしてから、市内の不法投棄が増えたという報告は特にありません。また、市ではゴミ袋の有料化に伴い、ほとんどの祝日でも回収する仕組みに変更しましたので、これは継続して行っていきたいと考えます。

委員

市役所の窓口はまだまだ分かりづらい。市民目線としては、案内する職員の親切な対応が窓口には大切だと思う。

市から送付される重要な通知（税金関係等）を見てない人（特に若い人）が多い。公用封筒には目立つ工夫が必要ではないか。

総合窓口の話があったが、お金（年金・税金等）の窓口相談については、通常の窓口から少し離れている方が市民に配慮があつてありがたいと思う。

会長

本日はたくさんの意見をいただいた。これまでの審議会の意見を踏まえ、次の新たな審議会に繋げていきたい。特に、地域事務所の見直しについては、いろいろな考え方があつた。地域は未来の関市の縮図。職員の人材育成を目的に若いエリートこそ、地域事務所での研鑽を積むことが大切だと思う。

最後に、これまで3年間にわたり、審議会委員の皆さまの取組に感謝申し上げ

げます。これまでいただいた皆さまのご意見を今後の取組に反映していただき、次の行財政改革に取り組んでいただきたい。

3 事務連絡

事務局

本日いただきました審議会のご意見、ご提言につきましては、各所管課へ指示し、改革の取組に反映させてまいります。

4 閉 会

副会長

これまでの審議会から感じたことは行財政改革によるさまざまな取組は行政にとって必要だと感じた。また、行政の運営には職員（人材）が重要であり、人材育成は必要不可欠であると思う。これからの市政のためにも職員の人材育成に取り組んでいただきたい。

5 その他（事務局あいさつ）

副市長

皆様方には、平成27年から3年間という期間において、関市行財政改革推進審議会委員としてご尽力いただきまして、誠にありがとうございました。

関市では、昭和61年に第1次関市行政改革をスタートさせまして、その時代に求められる市民ニーズや行政課題に対応しながら、これまで、計5次にわたる行政改革を推進してきました。また、平成27年度からは、これまでの行財政改革を大きく見直した「せき行財政改革アクションプラン」を策定し、市民の皆様にも改革の成果が分かりやすいよう、改革の「見える化」にもチャレンジしてまいりました。その結果として、本日ご報告しましたとおり、3年間で大変大きな成果を出すことができました。これもひとえに、ここにいらっしゃる審議会委員の皆様方のお力添えによるものと心より感謝申し上げます。これまでいただきました、さまざまなご意見やご提言をもとに、引き続き、行財政改革の更なる推進に努めてまいります。本年12月末日を以って本審議会委員が任期満了となりますが、今後とも本市の様々な取り組みにおいて、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。

【終了】